

～ 健口と輝く笑顔のために～ ASSOCIATION

# 歯科衛生だより

発行人/武井 典子  
発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19  
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023  
http://www.jdha.or.jp/

2016 December vol. **36**

## 口からはじまる健康長寿 —多職種連携で支えよう—

### 「日本歯科衛生学会 第11回学術大会」開催

主催：日本歯科衛生学会、公益社団法人日本歯科衛生士会

共催：一般社団法人広島県歯科衛生士会

後援：広島県、広島市、一般社団法人広島県歯科医師会、一般社団法人広島市歯科医師会

今年5月のアメリカ、オバマ大統領の平和記念資料館訪問、25年ぶりの広島東洋カープリーグ優勝など国内外から注目を集めている広島市において、平成28年9月17日(土)～19日(月・祝)の3日間、広島国際会議場を会場に『日本歯科衛生学会 第11回学術大会』が開催されました。2000名を超える参加者が広島のに集う中、さまざまなプログラムが展開されました。ここでは、「特別講演」「教育講演」ならびに一般の方々も参加された「県民フォーラム」の模様をご紹介します。



#### ■ 特別講演

### 口からはじまる健康長寿—医科歯科連携に必要な歯周炎の新しい捉え方—

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 栗原 英見 教授



#### 歯周炎と全身の疾患との関連メカニズム

開口一番、「今回の学術大会が広島開催ということで、ひと肌脱がせていただきます」と上着を脱いで広島カープのユニフォーム姿を披露し、参加者の拍手喝采を受けた栗原教授の講演は、歯科医療ならびに歯周病と健康長寿に関する内容で展開されました。

冒頭、歯周疾患の有り無しで60歳以上では年間の医療費の支出額の差が2倍にも拡大している事実を紹介し、加えて、将来の医療費を軽減させるには中年層30歳後半から50歳代への歯周治療が重要であり、ひいてはその時点での歯周治療が健康寿命の延伸に影響を与えると説明されました。

また、日本歯周病学会での研究成果から、現時点で推定される歯周炎と関連するさまざまな疾患として、血管障害、早産・低体重出産、誤嚥性肺炎、関節リウマチ、菌血

症、慢性腎疾患、NASH(非アルコール性脂肪性肝炎)、糖尿病が挙げられていることを紹介された上で、歯科に関係するバクテリアが、NASHの要因となることが判明しており、NASH患者に対する歯周病治療が疾病改善に効果を示す可能性があるとも話されました。

そこで、歯科治療が全身の健康への貢献という次のステップに上がるためには、従来の治療から、感染・炎症の制御、口腔機能の維持・回復へとシフトしていく必要があると説明され、そのためには、歯科衛生士もそれに適応した教育や研修が必要であり、多様な場面で多職種との連携の場が増えてくるであろうと述べられました。



## 「炎症」が医科歯科連携の新たな指標に

歯周炎など口腔内の細菌によって引き起こされる「炎症」が、多くの疾患と関連することが分かり始めた現在、「炎症」が、医科歯科連携のための新しい指標となるだろうと解説されました。今以上の連携を図るには、日頃からの情報交換が必要であり、「炎症」をキーワードに医科歯科それぞれの立場から疾患にアプローチする重要性を説明されました。

また、講演の最後に「予防に勝る治療なし」と歯周病予防の重要性を語り、これからの予防対策として①10歳代後半から30歳代前半への早期対応②若年化するメタボ

リックシンドロームへの対応③大学生や新入社員への歯科受診の促進④歯科健診率25%~30%にすることをあげ、今後実施するためには教育関係者や企業関係者との連携も必要だろうと締めくくられました。



## ■ 教育講演

### 歯科衛生士だからこそできる糖尿病予防

～闇を除いて未来を照らすSRP～

にしだわたる糖尿病内科 西田 亙 院長



#### 科学に基づいた力と、生涯に寄り添う力が必要

現在、愛媛県松山市で糖尿病専門の医院を開院し、糖尿病治療のスペシャリストである西田亙氏は、講演の冒頭、「私は生まれ変わったら歯科衛生士になりたいです」と発言され、その真意は、7年前、愛媛県歯科医師会の歯科医師たちとの出会いから、それまで興味関心のなかった口腔内の重要性、糖尿病との関連性に気づき、歯科衛生士による口腔ケアや歯周治療が糖尿病予防の大きな力になることが分かったからだ」と説明されました。

会場内に学生の参加者が多いことを見て、ご自身の30年以上にわたる医師経験から得た事実、「医療の教科書には書

かれていない話を紹介します」と講演がスタート。内科医である西田氏ご自身が感動したという、大阪大学大学院歯学研究科長の天野敦雄教授の著書『歯科衛生士のための21世紀のペリオドントロジー ダイジェスト』を紹介され、「この本は歯周病の病態学を述べているだけではなく、なぜ歯科衛生士の仕事が素晴らしいかが書かれています。ぜひ、読んでいただきたい」と力説されました。その上で、同著に書かれた天野先生の言葉を自分なりにまとめるならば、「歯科衛生士は科学に基づいた力と、患者の生涯に寄り添う力が必要」とであると伝えてから、ご自身の専門である糖尿病の話を展開されました。

#### 歯科衛生士には国民を社会病から守る力がある

戦後50年間で患者数が激増し、今や成人の4、5人に1人が発症する糖尿病と、それを超える患者数が知られている歯周病は“社会病”であると話され、糖尿病は生活習慣病とも呼ばれるが、西田氏はその呼び方が嫌いですと言われました。それは、生活習慣は自己責任が関係するが、糖尿病は現代社会の歪みが生み出した病気であるからだ



と説明されました。糖尿病の主要因は①運動不足②高脂肪食③単純糖質④夕食の摂

取時間(夜7時以降の食事は不可)をあげ、正しい知識と身を守る智慧を与えることが大切と話されました。

糖尿病専門医である自分が診ることのできるのは、氷山の一角である糖尿病患者だけですが、医科にはない歯科が持つ最も優れた特性は「連続性」です。赤ちゃんからお年寄りまで患者の年齢の「連続性」を持つことで、糖尿病予備軍や未病の人にアプローチできるのは、歯科医療従事者である歯科医師や歯科衛生士、中でも直接的に口腔ケアの指導に当たる歯科衛生士です。歯科は生命を守ることができ、妊娠糖尿病などを防ぐことで未来の赤ちゃんさえ救うことができるのですと話されました。

また、今や小学生にまで糖尿病の魔の手が伸びていることを、自治体の資料を用いて説明されました。糖代謝

異常の子供や口がきちんと発達していないことで、味覚を失う子供達がふえています。栄養指導、食事・咀嚼指導などで、きちんと口腔内を整えて発達させる教育が大事です。そして糖尿病予備軍の糖代謝異常の子どもが歯科医院を訪れた際、炎症によって歯肉が腫れている状態を歯科衛生士がを見つけ、それを患者本人なり保護者に伝え、甘い飲食物の摂り過ぎや間食に気をつけるようアドバイスできれば、糖尿病の予防につながります。「治

療をするだけではなく、病気を未然に防ぐ潜在的な力を歯科衛生士は持っている。だから私は生まれ変わったなら歯科衛生士になりたいです。とてもやりがいのある仕事だと思えます」と語った上で、「お口が健やかであることが幸せにつながる。歯科衛生士は国民を“社会病”から守るのです。頑張ってください。応援しています」とエールを送り講演を締めくくられました。

## ■ 県民フォーラム

### 私の野球人生

会期中のプログラムで唯一、一般の方々も参加して行われる『県民フォーラム』。毎回、学術大会の開催県に縁のあるゲストによる楽しい講演が好評を得ています。

今回登場されたのは池谷公二郎氏で、まさにタイムリーな人物。プロ野球、広島東洋カーブの元投手であり、チーム3度の日本一と4度のリーグ優勝に貢献され、自身も最多勝、投手として最高の栄誉である沢村賞を受賞するなど、広島カーブ一筋の野球人生を送り、現在は野球解説者として活躍されています。このタイミングで、しかも広島でカーブ25年ぶりのペナントレース優勝の話題に触れないわけがなく、大きな役割を果たしたベテラン選手と若手選手の話、テレビでは紹介できないような、“ここだけの話”で観客の心をつかんでから講演がスタートしました。

「私には常にライバルがいた。自分より優れたライバルの存在があったからこそ頑張ることができ、プロの世界に入ることもできました」と話す池谷氏は、甲子園を目指し、地元静岡の強豪校、県立静岡商業高校に入学。野球部に入部した初日、同級生で後に読売巨人軍に入団する左腕・新浦壽夫氏の投球を見て、「1日目にして入る高校を間違えたと思いました(笑)」とユーモア溢れる語り口調で聴衆を惹きつけました。3年生でエースとなったものの甲子園出場を果たせず、卒業後は地元の企業に就職して社会人野

### 野球解説者 池谷 公二郎 氏



球を始めるが、経営不振から2年目に廃部の憂き目にあい、転職して別の企業のチームへ。2年目に都市対抗野球で優勝を飾り、広島カーブからドラフト1位指名を受けたが、チーム事情から残留。その翌年に念願のプロ入りを果たすが、そこで待っていたのは同い年ながら、すでに先発ローテーション入りしている選手の存在。給与、待遇など大きな格差に愕然とするが、その選手を本気でライバル視して努力を重ねたことを懐かしむように語られました。

しかし、幸運なことに、入団2年目にそれまで万年最下位だった広島カーブがリーグ初優勝を飾り、カーブ第1期黄金時代を迎えた話へと続きました。そして最後に、「私のモットーは素直であること。人のアドバイスを素直に聞くことができたから、ここまでやってくることができたと思っています。『素直さ』は、これからも大切にしていきたいですね」と締めくくり、1時間の講演を終えられました。

#### PROFILE

1952年生まれ、静岡県出身。1972年ドラフト1位指名を受け、1973年シーズン終了後に日本楽器(現・ヤマハ硬式野球部)から広島東洋カーブに入団。1975年の入団2年目には18勝を挙げカーブの初優勝に貢献。1976年には20勝を挙げ、最多勝、最優秀投手にも選ばれ、投手として最高の栄誉といわれる沢村賞を受賞。チーム3度の日本一と4度のリーグ優勝に貢献し、1985年に現役引退。現在は、広島テレビの野球解説者として活躍中。